

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800750		
法人名	有限会社 くろべ		
事業所名	グループホーム みそのむら		
所在地	三重県伊勢市御園町高向481		
自己評価作成日	平成29年11月21日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_2017_022_kihon=true&JigvoNoCd=2472800750-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成29年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の介護、福祉の拠点となるべく運営推進会議を活用している。スタッフも積極的に研修へ参加したり、多職種との連携を深め利用者を支援している。・職員研修カリキュラムを設け、介護だけでなく、人間性や接遇等、幅広い人材の育成に力を入れている。又、新入社員向けの研修カリキュラムも設けてあり、新卒者、未経験者でも安心して勤務ができるような体制作り力を入れている。・人事考課制度を設けキャリアアップできる仕組みがある。・家庭的な雰囲気の中、スタッフと利用者が一緒に洗濯物たたみや食事の後片付け等を行うことで、役割を考慮し、自己実現ができるよう支援している。・外部サービス、デリバリーサービス、おでかけサポート等を取り入れる事によって、穏やかな日々の生活の中にも実感のある日常を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊勢市の北部、旧御園村の農地と住宅が混在する長閑な環境の中に建つ、今年で13年目を迎えた市内でも古くからの事業所である。開設当初から地域とともにあることを運営方針のひとつに掲げ、自治会や行政、学校、その他事業所などとの深い信頼関係の中、各種行事に参加したり行政と協力しながら地域の介護相談などに精力的に取り組むなど地域の一員としてその役割を十分に果たしている。事業所の運営理念は利用者・職員共どもの「自己実現」、運営方針には「共に考え共に生き、日々向上」と揺るぎのない姿勢を示しており、職員もまたこれによく応え生き生きとした事業所となっている。単に事業所ではなく家としてのホームでありたいと願う姿勢がよく表れた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に運営理念を掲げ毎朝唱和している。自己実現を目指し個人の尊重を重視し、日常生活支援につなげている。	「自己実現」を大きな目標として掲げ「自分らしく私らしく、日々の充実は人生の充実」そんな言葉からなる事業所理念は、利用者のみならず職員自らの姿勢を見つめるものとして開設当初から大切にされており、普段のケアの中で常に振り返り支援に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催の祭りや行事に地域の方を招待し、参加して頂いている。町づくり協議会にも一員として参加している。地域の自治会、老人会にも入り地域主催のイベントにも参加している。	加入している自治会での行事参加は勿論のこと、他地区ではあるものの市内の運営法人事務所がある場所での介護相談など地域に拘らない活動はもはや地域密着の枠を超えて大きな社会貢献を果たしつつあり、地域の中で重要な存在と意識付けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所のキャラバンメイトが集まり、認知症サポーター養成講座を企画している。地域の方々に認知症に対する理解や支援の方法が少しでも広がる様に努力している。運営会議でも勉強会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者へのサービスの報告を実施し、その時々テーマを設けて意見が出やすいような雰囲気作りをして話し合いをしている。	2ヶ月に1度偶数月に開催されており、利用者家族や医師、自治会関係者などあらゆる立場での参加があり、事業所運営にとどまらず地域での課題などを話し合うまでになっている。また年1回は土曜日の昼間に開催することとしており、利用者家族等への更なる機会の拡充を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは日頃から連絡を密にし、情報交換も行っている。毎月、介護相談員の来訪もあり時々アドバイスも頂く。運営推進会議には、必ず介護保険課、自治会の参加がある。	事業所での案件により日々の相談事などは包括支援センター、制度運営等は本庁介護保険課と積極的な関係を築いている。また福祉関係だけでなく例えば防災対応など地域と一体となった事業等に伴い危機管理課なども良好な関係を見出すなど行政全般における連携は充分である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修への参加、社内勉強会では事例をあげながら学ぶ機会を設けている。スピーチロック防止についても、朝の申し送りに唱和している。	身体拘束防止に関しては独自のマニュアルを作成しこれらを中心にして各種職員研修会の中に組み入れ毎回の確認を行っている。またスピーチロックなどの事例を示したものを事務室に貼り出すなど日常における喚起を促している。今後は運営法人の中の「身体拘束ゼロ委員会」を立ち上げる予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議に成年後見人(補佐人)の方が参加し、意見交換等も行っている。虐待防止、権利擁護に関する社外研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や勉強会で、日常生活支援事業、成年後見制度について学ぶ機会がある。また、社外研修への参加斡旋をしている。運営推進会議に成年後見人(補佐人)の方が参加し、意見交換等も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時、家族等の疑問にも耳を傾け、十分な説明と話し合いの下で、理解・納得が頂ける様努めている。運営推進会議や施設発行の新聞等で近況をお知らせし、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議にて意見交換を行ったり、希望・要望に関しても運営に反映できるよう、家族来訪時の声かけにも努めている。玄関先に意見箱を設置している。事務所直通の封筒も設置している。	殆どの利用者家族は概ね月1度程度の面会に訪れ、この機会を利用して介護計画の説明や、利用者・事業所に対する要望などを積極的に聞き取っている。また事業所や利用者の様子をたよりにして毎月発行し好評を得ている。昨年度のステップアップ項目であったが期待に対する効果は上がりつつある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議、勉強会で、職員の意見(ユニット会議検討書)や書面で提案等を聞く機会を設け、反映に努めている。年度末には希望者には代表との個別面談がありその中で個々の意見が言える仕組みがある。アプローチシートでスタッフの意向も聞き取りしている。	職員は毎月研修や情報共有のための会議を実施しており、管理者を通じて様々な意見を具申出来る様になっている。またアプローチシートを利用して直接代表者に意見を言ったり、職員同士もラインなどでそれぞれの立場での意見のすり合わせを行うなど、職員意見はあらゆる手法で反映できる様になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度や代表との個人面談を通じて各々に合った働き方ができる仕組みがある。ワークライフバランスの研修にも参加している。昨年度は伊勢市において、「仕事と生活の調和実践賞」を頂いた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して独自の社内研修プログラムがあり、個々の力量に合った内容が選択できる。新卒、中途採用関わらず、新入社員にはチューターをつけており、新人職員が安心して働ける取り組みを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会、介護保険サービス事業者連絡会等に参加し情報交換を行ったり、現場研修の受け入れ、施設見学等を通じて、サービスの向上に繋がる様取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族とのお話から十分に情報収集し、希望に添い、不安を取り除けるケアの実践に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシート等を通じ、本人、家族等の関係性を把握し、生活歴、家族の苦労話等にも耳を傾け、本人、家族の意向に添えるようなケアを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援のみならず、提携のある医師の往診、訪問看護、訪問歯科医等の医療サービスを活用しながらニーズに合わせて状況判断できるような仕組みがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で、できる事を共に行い、支えあう関係作りを行っている。家事や家庭菜園等を通して、残存能力を活かせる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開放的な雰囲気の中、家族がいつでも面会し、本人と過ごせる環境作りをしている。又、月に一回、施設の新聞を発行し、近況報告を密に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援等を通じて、本人の望む場所に出かけたり、地域の行事にも参加している。 (シルバー人材やお出かけサポートといった介護保険外サービスも活用している。)	利用者の大半は旧御菌村を中心とした周辺の出身者であり、職員もまた地域出身・在住者が多く共通した場所や行事の話題は細やかな支援に役立っている。伊勢という土地柄、名所や旧跡が多くその中のいくつかが利用者の心に残るものであり、職員の運転する車で出掛けてはその思いに添った支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の完成性に配慮したフロア一席の配置を考えている。(時にはスタッフが間に入り調整している。レクリエーションにより利用者同士のコミュニケーション促進に努めている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した利用者から相談を受けたりしている。近隣の場合は、仲の良かった利用者同伴で会いに行っている。必要に応じ、相談や支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と相談しながら今の環境の満足度や希望を聞き取りしている。困難な方には家族から意見を頂いたり、スタッフ間で調整しながら意向が把握できるように努めている。	平均介護度2.8と大半の利用者は意思疎通が容易であり、意思の分かり難い利用者には仕草やアイコンタクトで推し量っている。また通常のフェイスシートの他に家族への「聞き取りシート」を作成するなど工夫し利用者の意思把握に努力している。利用者同士の触れ合いも多く座談的に寄り集まることもありこれを機会として支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、アセスメントシート等を活用しながら、現環境の満足度やサービスの適切度について見直しを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの確認を行いその方に合った支援ができるよう努めている。ユニット会議でケース検討を行い各々の希望や状態に合った支援につなげている。その日の体調や気分など一人一人に合わせて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは利用者担当スタッフが経過をみながらケアマネがまとめる等皆で介護計画に携わっている。ユニット会議や朝の申し送りの意見もプランに反映できている。	入居後しばらくのモニタリングはケアマネージャーが行い、本計画に移行後は担当が行っている。カンファレンスは定例のユニット会議の中で行うこととしており、職員全員で対応している。計画期間は3ヶ月を基本としているが状況の変化には柔軟に対応し、利用者本位の支援となるよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な会議や朝の申し送り時に話し合い実践、それを介護計画の見直しに活かしている。また、一人一人の体調変化にも気を配っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態や家族の状況に配慮し、必要に応じた支援を提供している。加齢や疾患の進行に合わせた対応ができるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人クラブや認知症カフェ、買い物支援等を必要に応じて参加できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で主治医の訪問診療がある。特変時には24時間対応して下さる。必要に応じて主治医への相談も可能である。	通常の診療は協力医が行っており、専門科の受診には家族が対応している。往診に関しては協力医が月2回、歯科医が2ヶ月に1回となっているが、これ以外に歯科衛生士が週1回口腔ケアに訪れるなど、充分と言える医療体制は利用者・家族の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師巡回を受けている。常勤の看護師もおり、気軽に相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、管理者や主任が入院先へ見舞い、家人より状況や相談事などを聞き取り、主治医へ報告する様にしている。退院にむけた準備、退院後の方針なども家族や関係者と話し合い決定している。看取り指針もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居年数が長くなってきた方もみえる為、看取りについての説明会等も実施した。必要に応じて看取り指針に則りすすめていける体制がある。看取りの勉強会も行っている。	看取りについては入居時に利用者及び家族と相談しているが、殆どが希望されることもあり原則的に実施の方向である。昨年は1人の実績がありこれまで10数人を看取っている。事業所独自のマニュアルにより手法や段取りを細かく研修する他、実際の場面にはケース毎の勉強会を行い、またその後の体験実感をフィードバックし今後活かすなど体制も充分と言える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡先等を分かりやすく掲示してある。全スタッフが普通救命講習を受講し、急変時の対応を学び、又年3回以上実施している避難訓練の場で応急処置法も訓練している。救命普及員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、自身、津波、日中、夜間など様々な想定で訓練を実施している。また、防火管理委員会を中心として日頃から災害対策について検討している。	災害訓練については運営法人の防災管理委員会の計画により年3回実施している。また地域の講習会や訓練に参加するなど積極的に活動している。従来からトータルの災害対策マニュアルを備えているが今年は水災害に特化したものを作成しており、更に来年は地震災害を対象として作成する予定である。防災に対する意識は高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧語の徹底に取り組み、人生の先輩である利用者を尊重した言葉かけを意識している。スピーチロック等の不適切ケアの防止に努めている。	職員全員で尊敬を基本とした呼び掛けや会話を心掛けることとしており、丁寧語を中心としたコミュニケーションスキルのアップ、専門職としての向上を図っている。また「ニコリホットシート」はヒヤリハットシートの反対版で良い事、嬉しかったことを皆で書いて掲示しそれを1カ月単位でまとめて共有しているもので、その優しさが利用者支援に活かされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助等の際には、本人の意向を確認してから支援にあたっている。日常の会話やレクリエーションを通じて希望要望を聞き出せるように和やかな雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側が強要するのではなく、本人の生活ペースに合わせた声かけ、見守り、介助等の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に衣類の入れ替えや衣替えを行い、スタッフと共に洋服を選び好きなものを着てもらっている。季節に合わない服を着ているときはさりげなく声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ利用者の好みを聞きながら、又、利用者から調理法や味付けのアドバイスをもらって手作りで料理を提供している。配膳や下膳、食器洗い等を一緒にやっている。	食事は職員が交代で調理しており、ユニット毎に違うメニューはその日の担当者が材料を見ながら考えるもので利用者の毎日の楽しみとなっている。元気な利用者は下拵えや後片付けなど率先して行っており、立ち働く姿は入居前と変わらない日常を示し、食べるだけではない食事を中心とした生活のリズムが刻まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や食材を食事ノートに記録し、食事作りの時に参考にし、バランスの良い食事提供に努めている。食事、水分量を記録し、個々に合った物、量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ介助を実施。夜間義歯の消毒を行っている。希望者は歯科衛生士による口腔ケア、指導を受けている。歯科への受診協力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合った排泄方法を見極める為、排泄表で排泄リズムを把握して、声かけ、誘導、介助などを行っている。利用者の動作をみながら声かけ等を行っている。	利用者の大半は自立か一部介助であり、記録表に基づく誘導など細やかな支援を行っている。声掛けには家庭に居るかの様な自然さを心掛け、利用者本来の排泄を目指している。また特段の訓練的なことはしていないが、問題が生じた時には個々のケース検討で取り組むなどしており支援は充分である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で、排便間隔を把握し軽い運動や食べ物水分摂取を促している。主治医とも連携し、必要に応じて漢方や整腸剤や、茶葉の使用も検討している。なるべく食物繊維の多いものの提供等を考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、一対一でゆっくり入浴して頂くよう努めている。本人の希望や意向に聞きながら体調にも注意している。季節湯(菖蒲湯、柚子湯)入浴剤を入れ香りや温泉気分を楽しんでもらう。	入浴は原則として1日おき、午前午後を通して支援している。入浴を楽しいものとするために節季による柚子湯・菖蒲湯などを工夫する中で、職員との二人きりの気安さから普段は聞けない話やらフェイスシートにない昔の思い出話など新しい発見もあり、その後の支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前から使用している布団や枕を持参して頂くことで安心して休めるように努めている。また、日中、園庭での散歩、レクリエーション等程良い運動の機会を増やし生活リズムを整え、安眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変化は細かく主治医に報告する中でその方に合った用法・用量になるように状態を細かく報告して、医療との連携ができる様に努めている。お薬情報を看護師が中心となって管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各々のできる事を把握(食器洗い、洗濯、掃除等)し、環境を整えた上で役割を持ち自主的に行えるように支援している。それぞれの楽しみ、好きな事行きたい所など聞きながらできる限り実現できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を聞きながら、ボランティアやお出かけサポート等保険外サービスを活用して外出の支援を行っている。	日常的には広い敷地内での外気浴や畑の世話などが利用者の楽しみとなっている。定期或いは不定期では買い物や観光、行事など外出の機会を設けてはいるが、職員配置の関係で以前ほどは対応できず、利用者の楽しみの一つであった「誕生日外出」などは中止になってから久しい状況である。	入居前の生活の中でも戸外への自由な外出は利用者の最も希望するところである。事業所としても職員配置の問題など諸事情はあると思われるがこれまでも増してシルバー人材センターや運営法人の他部門の協力を有効に利用し、更に家族の協力も促すなど工夫しながら利用者の希望を最大限叶えられるよう努力を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理しているが、金銭管理の可能な方は施設の買い物やボランティアと一緒に出かけ買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、はがき等自由にやり取りができる雰囲気にある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電球の色は柔らかいものを使用したりと工夫している。室温、湿度調整を中心に生活環境の整備、向上に努めている。	食堂を兼ねる居間は全体的に広く、白い壁と木目のドア、床のフローリングが落ち着いた雰囲気である。各ユニットとも広いロビー、玄関から自由に園庭に出られる様になっており利用者目線の造りとなっている。また「設備チェックシート」により修繕箇所等を常に注意し対応している。今年は居間の畳の張替えを予定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファや和室等でのんびりしたり、少人数で集まって談笑したりする場面がみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきて頂く等入居や衣替えの際にアプローチして心地よい居場所作りに努めている。	居室はフローリング張りが14部屋、畳敷きが4部屋であり利用者の希望や状況に沿った形で対応している。掃除は毎日、利用者と職員と一緒にすることが多く常に清潔に保たれている。居室で過ごすときは読書やテレビ観賞など各々好きな様に時間を楽しんでおり、利用者のプライベート空間として十分に機能している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全バリアフリーになっている。トイレなどの表記は出来るだけ分かりやすくしている。居室の間違いないよう写真や氏名を貼る等の工夫をしている。		